



石河有瓢「四季花鳥図」右隻(部分) * 二曲一双

朝見香城「四季花鳥図」* 六曲一双

2026.3.13[金] ▶ 5.10[日]

●前期: 3月13日(金) ▶ 4月12日(日) ●後期: 4月14日(火) ▶ 5月10日(日)

この春、古川美術館・分館 爲三郎記念館では、古川美術館コレクションから厳選した作品による二つの
展覧会を開催いたします。

分館・爲三郎記念館では、「数寄屋の日本間で味わう 屏風の世界」と題し、日本の住空間において絵画として
鑑賞されるだけでなく、空間を構成し、季節や物語を運んできた屏風に焦点を当てます。屏風と軸物が織りなす
風景と、爲三郎記念館の数寄屋建築が響き合うことで生まれる、日本の美のあり方をご堪能ください。

〈お問い合わせ〉

公益財団法人 古川知足会 古川美術館・分館 爲三郎記念館
〒464-0066 名古屋市千種区池下町2-50 / TEL 052-763-1991 / FAX 052-763-1994
担当学芸員 山内綾子 (mail : a_yamauchi@furukawa-museum.or.jp)
URL: <http://www.furukawa-museum.or.jp/>

日本の住空間において、絵画は単なる鑑賞の対象ではなく、空間を構成し、季節や物語を運ぶ役割を担ってきました。とりわけ屏風は、絵画としての美しさと、空間を仕切る道具としての機能を併せ持ち、視線を導き、気配を生み、暮らしの中に風景を立ち上げる存在でもありました。

本展では、屏風と軸物が織りなす風景を通して、爲三郎記念館という数寄屋建築の空間美学と、視線・季節・物語の流れを感じ、絵と空間が響き合うことで生まれる、日本の美のあり方を、静かに、深く味わっていただければ幸いです。

●見どころ●

爲三郎記念館は昭和9年に創建された数寄屋建築。その邸内には大広間2部屋、小間2部屋があり、そこに屏風を立て部屋ごとに違った景色、雰囲気を感じることが出来ます。

また、屏風には、美しい絵が描かれたもの、書がしたためられたものなど、大きさや、内容も様々です。本展では、それぞれの部屋で屏風の在り方を様々に変えながら、“屏風”の世界を繰り広げます。

大広間 【大桐の間】 寿ぎの間 —四季花鳥図

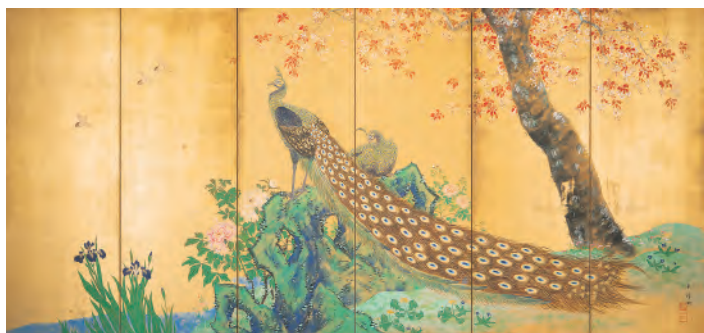
屏風は祝いの席を盛り上げる道具でもあります。床の間の軸とともに屏風で寿ぎを演出し、部屋全体が一つの寿ぎの空間として作り出されます。

特に祝いの席では、金屏風、四季花鳥図などが使われました。四季花鳥図は春夏秋冬の四季を一つの画面に収めることで、時間の循環と調和を表現するだけでなく、四季が揃うことで「欠けるものがない」＝円満・完全性の象徴とされました。つまり、寿ぎの空間を演出するために、四季花鳥図屏風は重要な役割を果たしていたわけです。

そんな花鳥屏風を前期・後期に分けて2作品展示します。前期の朝見香城「四季花鳥図屏風」は、金地を背景に、右隻に桜と孔雀(雌雄)、左隻に紅葉と雉(雌雄)が描かれ、“これぞ花鳥画”といえる圧巻の屏風です。後期の石河有鄰「四季花鳥図」は、周りを金地で囲み品格をたたえる四季の植物と鳥が凜とした美しさを感じさせます。



朝見香城「四季花鳥図」六曲一双（左隻）



朝見香城「四季花鳥図」六曲一双（右隻）



石河有鄰「四季花鳥図」（秋冬）



石河有鄰「四季花鳥図」（春夏）

大広間 【ひさごの間】 遊興の間 収穫の宴

古来屏風は、遊興の場や饗宴の席でも使われました。屏風は華やかに場を盛り上げるだけでなく、部分的に場を区切る役目も果たしていました。

本展では、床の間に作者不詳の「酒宴遊興図」の酒宴図の軸をかけ、室内には山内一生による屏風《みのり》を中心に、膳や小物を配して、収穫の宴の情景を作り出します。さらに、屏風を背合わせに室内空間を区切り、反対側に遊興の空間を作り出して、区切るというもう一つの屏風の在り方を示します。



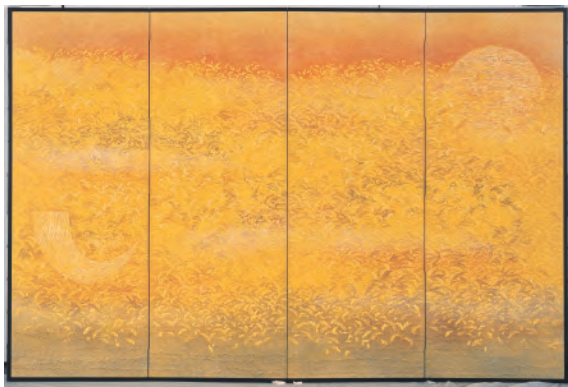
軸 作者不詳「酒宴遊興図」※通期展示



「酒宴遊興図」の部分拡大図

酒宴を楽しむ空間と、屏風で区切られた小さな空間では、坊主頭の人物が襟元に扇子を指し、向井川の男性は耳をふさいで、何かに興じている様子。そんな二人の様子を、覗いている女性たち。

「酒宴遊興図」の完全再現まではできませんが、酒宴と遊興の雰囲気は屏風によってひさごの間に作り出します。



山内一生「みのり」六曲一双 ※通期展示

小間 【葵の間】 屏風と茶道文化

葵の間では、炉を切り、春を意識した茶道具を設えます。

茶道での屏風は、入口を隠す・部屋を仕切るなどのほかに、点前座に“風呂先屏風”を使用します。お湯を沸かすための「炉」の奥(先)に置かれることから、風炉先屏風と呼ばれており、茶室の空間を仕切るだけでなく、茶道具を風から守る、背景として茶道具を引き立てるといった役割もあります。

小間 【太郎庵】 伝統の香道の空間

太郎庵では、書の屏風をしつらえ、香道の道具(香箱)を展示します。絵画とは違う書の静謐な雰囲気が香道の雅さと相まって、静謐な空間となります。

その他の部屋にも、それぞれの空間に合わせて、屏風を設えます。
記念館で《屏風の世界》を存分にお楽しみ下さい

●展覧会概要 ※ご予約・お問い合わせ 052-763-1991 (開館日 10時～17時)

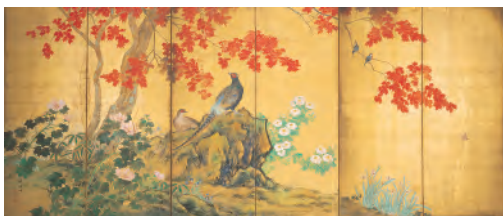
展覧会名 特別展 「数寄屋の日本間で味わう屏風の世界」
会 期 2026年3月13日(金)～5月10日(日) (美術館に同じ)
前期 3月13日(金)～4月12日(日)
後期 4月14日(火)～5月10日(日) ※1部展示替えをします
休館日 月曜日※但し5月4日(月・祝)～6日(水・振休)は開館、7日(木)は休館
観覧時間 午前10時～午後5時(最終入館は午後4時30分まで)
会 場 爲三郎記念館(古川美術館分館)
主 催 公益財団法人古川知足会
後 援 愛知県教育員会、名古屋市教育委員会、
中日新聞社、CBCテレビ、スターキャット株式会社
観覧料 2館共通券 大人1200円、高大生500円、中学生以下無料

●関連イベント●

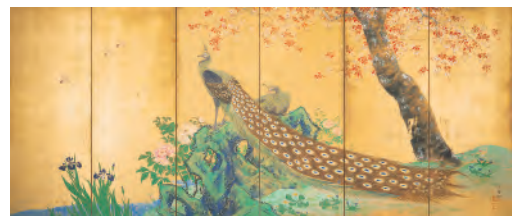
① 担当学芸員によるギャラリートーク 予約不要
日 時：3月18日(水) / 4月24日(金) 各日11:00～
会 場：爲三郎記念館 邸内
参加費：無料 ※別途入館券必要

② 香道研究家・荻須昭大による「香道の歴史と神髄」 要予約
仏教とともに飛鳥時代に伝来した香と香道の歴史、そしてその神髄である《^{いちぢうぎ}一炷聞き》
について語ります。
日 時：4月16日(木) 13:30～15:30
講 師：荻須昭大(香道研究家)
会 場：古川美術館 3F 特設展示室
定 員：30名
参加費：1500円 ※別途入館券必要

●広報画像 掲載をご希望の方は、学芸課 山内綾子まで画像番号をお知らせください。



A-2：屏風 朝見香城「四季花鳥図」
六曲一双(左隻)



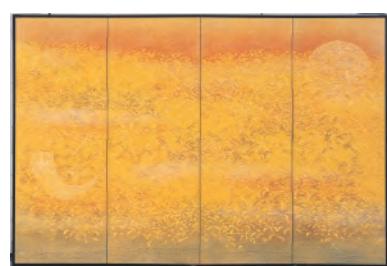
A-1：屏風 朝見香城「四季花鳥図」
六曲一双(右隻)



B-2：屏風
石河有鄰
「四季花鳥図」(秋冬)



B-1：屏風
石河有鄰
「四季花鳥図」(春夏)



C：屏風 山内一生「みのり」
六曲一双